

# 平成28年度 佐渡市国語部 活動報告

部長 佐藤 しのぶ

## 1 研究主題

第13回佐渡市小学校複式学習指導研究会への参加や、佐小研国語部授業研修会での授業公開を通して、授業改善の在り方を見付け、指導力向上を図る。

## 2 研修の概要

### (1) 第13回佐渡市小学校複式学習指導研究会 第5・6学年「やまなし」の授業より (会場：佐渡市立前浜小学校 授業者：大塚 乃里子 教諭)

① 研究テーマ 「学ぶ意欲をもち、主体的に学習に取り組む児童生徒の育成  
～かかわり合い、伝え合いを通して学びを深める指導の工夫～」

② 本時のねらい

既習事項の活用や話し合いを通して、作者が題名にこめた思いを自分の言葉でまとめることができる。

③ 授業の実際

「なぜ作者は題名を『やまなし』にしたのか」という問いを引き出した後、既習事項を振り返らせ考えを書かせた。次に、班で話し合い、考えをまとめ、ワールドカフェ方式で他班とも意見交流した。これらの際に、反応例を示したカードを活用させ、話し合いが深まるよう支援した。最後に、もう一度課題に対する考えを書き、授業を終えた。



④ ご指導 (佐渡市立金泉小学校 校長 山口 学 様)

- ・児童が主体的に取り組む言語活動の位置付けが重要である。
- ・話し合いは、書いたことの「出し合い」ではなく「尋ね合い」でなければならない。そのためにも反応カードの活用はよい足がかりとなった。今後も温かい聞き方と優しい話し方を育てていくことが大切である。

### (2) 第5学年「想像力のスイッチを入れよう」の授業より

(会場：佐渡市立金井小学校 授業者：松田 健太 教諭)

① 研究テーマ 「事例と意見の関係をおさえて、自分の考えをまとめよう」

② 本時のねらい

キーワードに着目して文章を読み、筆者の考える「想像力のスイッチ」を捉えることができる。

③ 授業の実際

「想像力のスイッチを入れる」とは、どうすることなのかという課題を立て、本論中にその答えがいくつあるかを考えさせた。班員全員が1枚のホワイトボードに考えを書き、それを基に話し合いを行った。答えを1つに集約した後、全体で共有した。その際、8段落中の2文において、同義として捉えるか、異義とするかというズレが児童の中に生じ、検討することができた。



④ ご指導 (佐渡市立八幡小学校 校長 山崎 勝之 様)

- ・主体的学びを生み出す方法の一つとして、日頃の生活から課題をつくることが有効。
- ・難しい教材である。本時では考えは広がったが、議論するというには弱かった。話し合いを深め、対話的学びにつなげるためには、課題の焦点化が重要である。
- ・理解し直す、表現し直す等、考えを変えていく姿こそ、深い学びにつながる。

## 3 成果と課題

### (1) 成果

二者択一、複数選択等の選択型の発問をすると、他者との考えの違いが明確になり、対立の視点が生まれたり、互いの根拠や理由付けの検討につながったりし易くなる。

### (2) 課題

選択型の問い方は、どの子も考えをもち易いという点において有効である。しかし、根拠と理由に基づいた選択をさせるためには、選択の際の視点を明確に示す必要がある。